
バカとテストと不幸体質

L I N K 8 7

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとテストと不幸体質

【Nコード】

N3671M

【作者名】

LINK87

【あらすじ】

学力も高い、運動もできる、容姿のレベルも高い。しかし、それを打ち消すほどに不幸体質な男、井上咲月は『とりあえず死なない』のモットーをかけたがながら、Fクラスの仲間たちと今日を生きていく。

第一話 不幸な人を笑うと不幸が移ります（前書き）

新参者で読みにくい小説ですがよろしくお願いします。

第一話 不幸な人を笑うと不幸が移ります

人間生きてりやいいことあるさ！ 何回も言われた。

まあ、遠回しに言つと『今は不幸でパツとしないけど』ということだ。

そんなこと、僕が一番自覚している。いままで、幸運なんて一度も無かった。たぶん、これから先も無いだろう。

「おはようございます、西鉄先生」

「人の名前を略すんじゃない」

あれ、この人の名前ってなんだっけ。違つたかな。

「まあ、いい。これがお前のクラスだ」

西鉄先生が紙を渡してくる。この人も性格が悪い。

「クラスは分かっています。僕はふり分け試験の際に銀行強盗に巻き込まれて死にかけましたから無得点扱いでFクラスです」

「おう、そうだったな。お前は厄病神に憑かれてんじゃないか？」

苦笑して西鉄先生が紙を渡す。この人は面白がつて言っているんだろ？が厄病神のお被いはもうすのである。それと教師だったらちよつとは生徒に気を配れ。

待てよ！ もしかしたら、奇跡が起きて僕はAクラスに入れるんじゃないか？

誰かが僕の境遇に同情してくれて、僕はAクラスに入れるんじゃないか？

そう考えると西鉄先生のあの態度もうなずける。あの苦笑は実はFクラスじゃなくて、Aクラスにはいれるという僕をたたえて笑ってくれたのか？

お願いだ……。人生17年……。生きてきたんだ。どうか、奇跡よおこれ！

『井上咲月 Fクラス』

僕は今日も不幸です。

第一話 不幸な人を笑うと不幸が移ります（後書き）

第2話 不幸はなかなか治らない！（前書き）

どうも。二話目の投稿でございます。末長くお付き合いくださる
とありがたいです。

第2話 不幸はなかなか治らない！

バカテスト 校内アンケート 二年生Fクラスの場合

問一 自己紹介をしてください。

井上咲月の解答

井上咲月です。あだ名は『不幸に愛された男』です。これ以上聞くと呪います。

教師のコメント

本当に呪うんですか？ 冗談だったとしたら、全く笑えません。リアルに怖いです。

吉井明久の解答

吉井明久です。気軽にダーリンって呼んでくださいね！

教師のコメント

ダーリーーーーーーン!!!!!!!!!!!!!! .

……………すいません、取り乱しました。

姫路瑞希の解答

姫路瑞希です。ぶしつけ者ですが、よろしくお願いします。

教師のコメント

ええ、こちらこそ……………このときの姫路さんは常識があつて良かったです。

島田美波の解答

島田美波です。吉井を殴ることが唯一の趣味です。

教師のコメント

吉井くん、アーメン。

坂本雄二の解答

坂本雄二だ。

教師のコメント

この時は強かったですよね。いつから、霧島さんに犬扱いされたんでしょう。

木下秀吉の解答

木下秀吉じゃ。これから、一年よろしく頼む。

教師のコメント

このときは男の子でしたよね。いつから、性別が『秀吉』になったんでしょう。

土屋康太の解答

・・・・・・・・・・・・・・・・土屋康太。ムツツリ商会、今年もよろしく。

教師のコメント

私もお世話になっていきます。懲戒処分になれようと木下さんの写真
真はブラボーです。

第2話 不幸はなかなか治らない！（後書き）

第3話 不幸の予感

・・・・・・・・わかってるんだ。不幸だってことは。

「さつさと座れ、不幸野郎」

我が悪友、坂本雄二が僕に命令してくる。僕は人に不幸と呼ばれることが何より嫌いなのだ。移してやろうか？ 受験に落ちる、恋愛も失敗、就職も失敗、その他もろもろ不幸地獄ツアー（主催 井上咲月）に招待してやろうか？ ええ？

「落ち着くのじゃ、咲月」

僕に呼びかけたのは、推定性別『女子』（ここ重要）の木下秀吉だ。演劇バカである。

「咲月、わしに対して失礼なことを考えてないかの？」

拗ねた表情も愛くるしい。しかし、戸籍上は男の僕たちは結ばれることはできない・・・・・・・・いつそ、駆け落ちでも・・・・・・・・

「・・・・・・・・・・・・・・・・（カシャカシャッ!!）」

危ない、危ない。地獄に持っていかれるところだった。

「やあ、ムツツリー二。朝から性欲丸出しで御苦労さま」

「・・・・・・・・・・・・・・・・（ブンブン!!）」

否定しつつもカメラのシャッター音は途切れない。

「ムツツリー二、その写真を・・・・・・・・純粹に両手の子指が痛いっ!!」

「吉井、あんたは何をやっているのかな」

まさか、小指を曲げられているとは言わないだろう。下手に刺激したら折れるぞ。

「小指を曲げられています・・・・・・・・ぎゃああああああっ！」

「んなこと言ってんじゃない！ 学校内の風紀を乱した罪で天に変わって私が成敗してやるわ！」

セーラーローンのセリフに酷似しているが、リアルに怖い。

「……そもそも、学校内の風紀を乱したことぐらいで神様はこんなむごいことをやるはずもないんだが。」

「助けてよ、咲月！ 君だけが頼りなんだ！」

学校一のバカ、吉井明久が全ての指関節を決められ、苦悶している。

僕だけが頼りか……… フツ、僕の株も上がったな。

「だが、断る」

「薄情者おお！！！」

人の不幸は蜜の味。待てよ……… ということは俺は大量の蜜を日本人諸君に無料で配っているということか。前言撤回、やっぱ助けよう。バカに恩を売るのも悪くないだろう。

「おい、島田、それぐらいにしとけ。明久が死んだら、お前はいいしの君をなくすことになるぞ」

島田美波は明久のことが好きなちよつと乱暴でペツタンコ（何がって？ 僕を不幸にする気か？ え、もう不幸になっている？ てめえ、この野郎！ 失礼、取り乱してしまいました）

「ちよつと、井上！ 何言ってるの！？」

あわてて、僕の口をふさぎにくる島田だが、僕だって不幸歴17年だ。素早く飛びずさって島田の攻撃をかわす。

「ねえ、島田さん。いとしの君って………」

島田がトマトのように赤くなる。島田も、もう観念したらいいのに。

「どういう意味？」

こいつはバカだったことを忘れていた。

「あんたに死を与えるわ」

さよなら、明久。

第4話 不幸は突然に（前書き）

更新、遅くなってしまうてすいません。

第4話 不幸は突然に

明久が天に召された日……

「勝手に僕を殺すなああああああ！！！」

「なんだ、明久。語りを邪魔するな」

「違う！ それは虚偽事実だ！ 僕は生きている！」

「チツ……」

「雄二、舌打ちするな！」

あつと、失礼。一人称が雄二に乗っ取られた。あーあー、マイクのテスト中。

「みなさん、席についてください」

担任教師が教室に入ってきた。確か……福原先生だったかな。

「みなさん、Fクラスの担任の福原慎です。よろしくお願いします」
福原先生は黒板に名前を書こうとしてやめた。チョークすらないのか。

「センサー、俺の座布団に綿が入ってないんですけど」

「あ、はい。我慢してください」

「先生、ちゃぶ台の足折れています」

「木工ボンドがあるので後で自分で直してください」

「せんせ、窓が壊れていますよ」

「わかりました、あとでビニール袋とセロハンテープを支給します」
ここは新しいクラスのみんなになじむため、ボケるべきかな。

「先生、僕の不幸体質が治りません」

シーン……

「ちょっと待って下さい。僕は変なことをいったかも知れません。それは謝ります。だけど、そのリアクションはないでしょう」

確かに返答しにくい答えではあったけど。笑い飛ばしてくれれば

いいですよ。

「では自己紹介をしましょうか」

「ちよっと待って！ 僕の返答をなかったこととして扱うのは余計にダメージが！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3671m/>

バカとテストと不幸体質

2010年10月8日12時01分発行